

1 学校教育目標 高い志と進んで責任を遂行する強い意志を持ち、社会に貢献できる、知・徳・体の調和のとれた、心身ともに健全な人材を育成する。	2 本年度の重点目標 ①生徒一人一人の学習状況等に応じた『伸ばす教育・伸びる教育の推進』 ②生徒一人一人の関心・意欲に応じた『進路ガイダンスの充実』 ③ハイレベルな文武両道を目指す『質の高い授業』と『行事・部活動のバランス』 ④規範意識や礼節、報恩感謝などの素養を育むことによる『品格のある校風の醸成』 ⑤家庭や地域社会との相互理解による『信頼される学校づくり』 ⑥校舎制による円滑な学校運営
---	---

3 目標・評価
 ①生徒一人一人の学習状況等に応じた『伸ばす教育・伸びる教育の推進』

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上	生徒の学力の向上を図ることができたか	①各教科で課題の調整を行い、1週間の家庭学習時間の平均を、1、2年生は15時間以上、3年生は20時間以上にする。 ②各学期末成績で欠点保持者を1割未満にする。 ③進研模試の学習到達ゾーンで、B2以上を増やす(1年1月40人、2年1月30人、3年11月25人)。また、D層を減らす。	①各教科で具体的に家庭で取り組むべき内容を指示し、提出指導の徹底を図る。また、機会あるごとに家庭学習習慣を呼びかける。3年生においては、白高祭(学校祭)からの気持ちの切り替え指導に重点をおく。 ②普段の課題の未提出者には、必ず個別の指導をする。考査前には成績不振者に指導を行う。また、学期ごとに成績状況をこまめにチェックし指導を行う。 ③考査前、考査期間中の家庭(学校でも)学習の状況については、学年主任や担任に取り組み状況を確認し、期末考査後には取り組み結果を全校集会時に伝える。
教育活動	◎教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	ICT利活用教育の推進により、生徒の意欲や学力は向上したか	①教師が、生徒の視覚的・聴覚的な情報の活用を通して学習内容に興味・関心を持てるようにし、学習に対する意欲を高めるようにする。 ②教師が、授業においてICTを活用することの効果高めるために、授業内容の効果的な提示・展開・記録等を行う。 ③生徒が、学習に必要な情報を収集したり、繰り返し学習によって知識の定着を図ったりしやすいようにする。	①授業内容に關係する画像・映像・図表・グラフ・音声・楽曲等を提示し、内容に集中して取り組めるようにする。 ②効果的な提示方法やタイミングの検討、提示内容の吟味、展開・記録方法等の検討を行う。 ③情報収集のために必要な時間を設けたり繰り返し学習を行うための教材・資料等を作成したりするようにする。
教育活動	○希望進路の実現	生徒一人一人の希望進路は達成できたか	①難関大学複数名をはじめとする国公立大学進学希望者のうち20名以上の現役合格を目指す。	①成績上位者には特別指導を実施することで、難関大学合格へ向けた十分な対策を行う。また、生徒の受験機会を一般入試に限定せず、AO・推薦入試に向けた個別指導の対策にも力を入れる。 ②模試後には成績状況を提供し、各教科で生徒の学力を把握することで、適切な教科指導を行う。
教育活動	○読書習慣の定着	生徒の読書への意欲や活動は活性化したか	①新しい図書の配置と、よりよい蔵書購入及び啓蒙を図る。 ②クラス単位の読書量を増やす。	①「特集コーナー」を設けて知的触発をする。 ②図書委員で管理する「学級文庫」については、寄贈図書を活用し、配布冊数を増やすなど充実を図り、クラスでの読書環境を整える。

②生徒一人一人の関心・意欲に応じた『進路ガイダンスの充実』

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○進路意識の向上	3年間を見通して計画的に進路情報を与えることはできたか、また、そのことによって生徒の進路に対する意識は向上したか	①将来学びたい学問分野と現代社会のトレンドや問題点を意識させる。 ②高大連携授業、職場体験活動などの学校外での活動にも参加者を増やす。また、オープンキャンパスや進路ガイダンスへの参加者を増やす。	①『白高進路情報』に小論文指導に役立つ新書を学問分野別に一覧にし、総合学習や推薦入試・AO入試の受験時に生徒に活用させる。また、社会問題や最新科学等を扱った映像ライブラリーを作り、生徒が教養を身に付けたりや社会背景を知ったりする手段の一助とする。 ②進路講演会(全)、大学説明会(全)、オープンキャンパス(全)、進路ガイダンス(全)、キャリア教育講演会(全)、合格体験発表会(1,2年)、実習生講話(1,2年)、志望理由書面接講座(2,3年)、大学訪問(1年)、仕事について学ぼう(1年)、ジョイントセミナー(2年)を進路指導部で主導し、生徒の進路意識を啓発するのに役立てる。
教育活動	○「総合的な学習の時間」を通じた進路意識の向上	1年:自分の進路について考え、それに沿ってグループで研究することができたか 2年:自分の進路実現の方策について研究し、個人で研究することができたか 3年:入試に応じた研究をすするとともに、志望理由についても明確にすることができたか	①1年:「夢を創るとともに、知る」 ・自己理解等を通して将来を見つめる。 ・グループで自分の問題を探る。 ②2年:「夢を実現するために、深める」 ・大学の学部・学科等の研究をする。 ・個人で自分の分野の問題を探る。 ③3年:「夢を実現するために、次へ進む」 ・自分の進路に応じた研究をする。 ・自分の進路志望理由を確認する。	①1年:「夢研究」においてワークシートを用い、自己理解に基づいて夢を確認する。また、グループ研究において自分の分野の問題について考えさせる。 ②2年:職業・学部・学科についてまとめさせる。また、個人研究において自分の分野の問題について考えさせる。 ③3年:個人研究において自分の分野の問題についてまとめさせる。また、自分の進路に対する理由書を完成させる。

③ハイレベルな文武両道を目指す『質の高い授業』と『行事・部活動のバランス』

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○教職員の資質向上	教職員の授業力向上のための研修は実施できたか	①互見授業、および職員間の授業参観を実施し、授業力の向上に努める。 ②授業評価を実施することで生徒の授業の理解度を把握し、授業内容の改善に努める。 ③指導力向上のための研修会への参加を支援する。	①互見授業後の授業研究会、および授業参観後の評価・感想を通して、授業の改善に必要な内容を知る。 ②2学期に授業評価を実施し、業績評価表にリンクさせるとともに、授業の改善に役立てる。 ③研修会や研究会等の情報提供を、積極的に行う。
活動育	○主体的な生徒会活動	主体的な生徒会活動により、生徒会や委員会活動は活性化できたか	①各校務分掌と生徒会各部が連携を取り、各種委員会活動の活性化を図る。	①生徒総会を実施し、各部の目標を全校生徒で確認し、計画を実施する。
教育活動	○部活動の活性化	文武両道の推進を図ることができたか	①部活動加入率85%以上を目指す。 ②全国大会出場2部、県ベスト4以上3部、県ベスト8以上5部を目指す。 ③完全下校時間を厳守する。	①新入生に対して両キャンパスで共同の部活動紹介の実施や勧誘又は、見学などを行い、入部しやすい環境を作る。 ②限られた時間の中で効率の良い練習を行い長期的な強化を図る。 ③学習時間確保のためにも、下校指導を徹底し、学習ができる環境を作る。

④規範意識や礼節、報恩感謝などの素養を育むことによる『品格のある校風の醸成』

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○規範意識やマナー	規範意識やマナーは向上したか	①高校生らしい爽やかな身だしなみで落ち着いたきのある学校生活を送らせる。 ②気持ちの良い挨拶が飛び交う学校を作る。 ③問題行動を「0」件にする。	①普段の学校生活の中から職員全員で指導にあたり、学期に2回は服装頭髪検査を実施する。 ②毎朝生徒の登校時には職員が交代で登校指導を行い、生徒会役員が挨拶運動を実施する。 ③集会やホームルームの折に、生徒に対して注意喚起する。
教育活動	○安全や防犯	安全、防犯意識の高揚を図ることができたか	①交通事故「0」件にする。 ②事故や事件に巻き込まれないように普段の指導から未然防止に努める。	①安全・防犯・薬物に関する講話を専門機関に依頼して実施する。 ②集会やホームルームの折に、生徒に対して注意喚起する。 ③定期的に自転車の施錠点検を実施する。 ④自分の持ち物や貴重品など管理を徹底させる。
教育活動	○情報モラルや情報セキュリティ	生徒の情報モラルを高め、情報セキュリティへの意識を高めることはできたか	①個人情報について理解させ、個人情報の取り扱いに留意させる。 ②SNSの活用について指導を徹底する。 ③情報モラル・情報セキュリティの重要性について意識を高める機会を設ける。	①ホームルームや集会等での講話の中で、繰り返し注意喚起する。 ②定期的にネットパトロールを実施し、問題行動の未然防止に努める。 ③情報モラル・情報セキュリティに関する講習・研修などの案内を行う。
教育活動	●心の教育	思いやりのある豊かな心をはぐくむことができたか	①ホームルーム活動や講演会等を通して心の教育の実践を図る。 ②地域への理解をすすめ、郷土を愛する心を育てる。	①学期ごとのボランティア活動やテーマごとの講演会を開催し、思いやりや人間性豊かな生徒の育成を図る。 ②「佐賀のことを学ぶ時間」において、講話やホームルーム活動を計画し、白石や佐賀のことについて理解を深めるとともに、伝統行事への参加や郷土料理実習などの体験の機会を設ける。

⑤家庭や地域社会との相互理解による『信頼される学校づくり』

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●いじめ問題への対応	いじめの早期発見、早期対応に向け、いじめ防止基本方針を踏まえた取り組みはできたか	①生徒の実態を把握し、いじめの未然防止に努める。	①生徒会でいじめ防止に関する標語やポスターを作成し、全校生徒の呼びかける。
学校運営	○保護者との連携	学校行事等への保護者の参加者数は増えたか	①年3回の評議員会、5月のPTA総会、体育祭時の駐車場係、文化祭時のPTAバザー等への積極的な参加を呼びかける。そのためにも、情宣活動をしつかりしていく。	①まずは、生徒を通じて、各種行事の案内文を早めに渡すように準備する。同時に、スクールニュースに案内を配付した旨の文章を載せ、保護者へ確実に連絡内容が届くように努める。
学校運営	○情報発信	学校情報の積極的な発信はできたか	①「白石高だより」を年5回以上発行し、学校情報を外部に積極的に発信する。 ②学校HPを通じて、学校行事の内容・予定、部活動の活動状況等を積極的に発信する。 ③学校説明会、体験入学については、新白石高校に向けての内容を吟味し、より分かり易く魅力的なものにする。	①「白石高だより」の発行については、保護者・中学生等へのより効果的な情報発信のための配布方法を検討する。 ②HPの内容の定期的な更新を心がけ、できるだけ新しい情報を提示する。各部活動には、少なくとも学期ごとの更新を依頼する。また、生徒・保護者への周知を図るため、職員もHPの最新情報を把握できるよう情報を提供する。 ③学校説明会、体験入学については、パワーポイント等を利用し、分かり易いものにする。

⑥校舎制による円滑な学校運営

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○授業の実践	授業の円滑な実施はできたか	①出張などによる自習時間を極力抑えて、教科内の操作や授業振替によって、実施率の向上を図る。 ②授業内容の工夫により、より中身の濃い、分かりやすい授業を心掛ける。	①出張情報などを掌握し、可能な限り時間割操作を行う。 ②課題の工夫や年間を見通した授業計画により、より充実した学習を提示する。
学宮校運	○学校行事	学校行事の円滑な実施運営はできたか	①両キャンパスの生徒が取り組みやすいような行事を企画する。	①できるだけ早めに両キャンパスでの事前打ち合わせや検討を開始し、足並みを揃えるようにする。
教育活動	○部活動の活性化	部活動の円滑な実施運営はできたか	①部活動加入率85%以上を目指す。 ②両キャンパスの部活動顧問間で情報を共有する。 ③円滑なスクールバス運行を行う。	①新入生に対して両キャンパスで共同の部活動紹介の実施や勧誘又は、見学などを行い、入部しやすい環境を作る。 ②部活動顧問会議を実施することで、両キャンパスの情報共有を図る。 ③スクールバスの運行は、事務局と協力し部活動に参加しやすい環境を作る。
学校運営	○学校業務	校務分掌等の円滑な実施運営はできたか	①両キャンパス間で校務分掌を平準化する。 ②分掌事務を連携し相互に情報交換することで、効率化を図る。 ③協同した学校行事などを企画し、精選を図る	①各校務分掌の構成を共通化し、相互に情報交換がスムーズに行えるようにする。 ②ICTツールを活用して、効率的かつ迅速な運営ができるよう工夫する。 ③学校業務をスリム化し、精選することで内容の充実を図る。
教育活動	○効果的な生徒会活動	校舎間移動の円滑な実施運営はできたか	①学校行事と連携し、効率的なスクールバスを運用することで、部活動の効率をアップする。 ②相互のキャンパス間で専門性を生かし、部活動を活性化させる。 ③生徒による主体的な生徒会活動を運営する。	①校時や行事を鑑みて、より実態に合ったスクールバスの運行を心掛ける。相互に連絡を取り、運営者と緊密に連携をとる。 ②相互のキャンパス間で情報共有し、部活動生徒の参加の実態を把握する。また、実践報告などを行い、相互の魅力を発信する。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	望ましい生活習慣の確立と自己管理能力を向上させることができたか	①生徒の食や健康に関する意識を高め、自己管理能力の育成に努める。 ②保健室利用者数年間800人未満を目指す。 ③保護者と連携して健康管理・生活管理を推進する。	①定期的な「保健だより」「食育だより」の発行や講話を通して、食習慣や運動の重要性、健康管理に対する意識を高める。 ②毎週の保健指導部会において保健室の利用状況を確認し、状況に応じて、スクールカウンセラー・学年・保護者と連携を図る。 ③1学期の三者面談時に、定期健康診断等の結果を保護者に渡し、必要に応じて再受診を勧める。
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	職場全体の業務分析を行い、適切な業務の分散などによって、学校業務の改善ができたか 職員の各自の意識改革を促し、業務に係るストレスを軽減し、適切な勤務時間の運用ができたか	①教職員の各自の働き方に関する意識の改革と、業務改善の方策を図る。 ②時間外自発勤務時間の「月100時間超」および「2～6か月平均80時間超」に該当する職員数を減らす。 ③ストレスチェックに係る「高ストレス者」を「0」にする。	①業務改革に係る職員研修を行い、働き方改革に係る意識の啓発を図る。 ②業務記録表の提出などを通して、職員の勤務状況を把握し、早期の声かけと産業医など専門機関の指導を合わせて、勤務時間の適切な運用を指導する。 ③職場全体を見渡した業務の分散を工夫し、業務に係るストレスの軽減を図る。

●は共通評価項目のうち必須項目、◎は共通評価項目のうち特定課題、○は独自評価項目